



「New」「Next」をプラスする製品開発技術展

N+Technology N+Sustainability

2024 10.9 水 > 11 金

WED FRI

東京ビッグサイト 東ホール



展示会ニュース Vol.1

発行元:エヌプラス事務局

〒100-0013

東京都千代田区霞が関1-4-2

大同生命霞が関ビル4階 アテックス (株) 内

TEL : 03-3503-7621 mail : office@n-plus.biz

www.n-plus.biz

《10月東京ビッグサイト開催》!ものづくりのリアル展『エヌプラス』

出展申込締切迫る

あらゆる製造業に「New」「Next」を提案

本年10月9日(水)から11日(金)の3日間、東京ビッグサイト東ホールにおいて、ものづくりの複合展示会『エヌプラス2024』が開催される。本展ではあらゆる製造業を対象に、課題解決につながる最新技術や情報を発信。主要来場ターゲットとなる「研究開発部門」が注目する3つのセグメントと全14のキーワード別展示会で構成され、出展企業からは自社製品・技術の「新用途・販路開拓の場」として絶大な支持を得る。

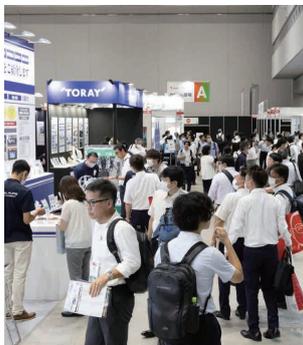
昨年9月の開催時は新型コロナウイルスの5類感染症移行の影響もあり、出展者・来場者数ともに対前年比約1.4倍を計上。コロナ前を想起させる展示会場の活況ぶりは、関係者にエヌプラス復活を強く印象付けた。「昨年来場時に会場の雰囲気よかった。」「新技術の効果検証はWEBツールでは図りにくい。エヌプラスで思わぬ出会いに期待したい。」など今年も出展募集スタート時点から大きな反響を獲得。事務局には今月末に迫る出展申込締切を前に問い合わせが多数寄せられている状況だ。本号では、今年で15回目の開催を迎える本展の概況と最新出展者動向の一部について紹介する。

展示規模を拡大 会場は東ホールへ

昨年は南ホールでの単独開催にて確かな実績を残した一方、より来場アクセスが良好な東ホールでの開催を望む声が多かった。本年はそうした声に応え、東ホールで展示規模を拡大しての開催が決定。「10月に東京ビッグサイトで開催するものづくりのリアル展示会」として大きなアドバンテージを得た。差別化の施策として、食品機器の複合展「FOOD展」と展示会場をシェア。相互入場による賑わいの向上に加え、新たなビジネスマッチングにも期待がかかる。

新たなキーワード展も注目

前回、大幅リニューアルとなった展示構成。本年は好評そのままだ「テクノロジー」分野と「サステナビリティ」分野の2本軸に加え、特別企画展の「ライジングカーテクノロジー」(詳細は裏面参照の継続路線をふむ。キーワード別展示会では「テクノロジー」分野の新たな要素として「不織布・機能紙展」に注目。大塚産業マテリアルが不織布の立体成形技術PRすべく早々に出展を決めたほか、日本不織布協会も会員企業6社を集めたパビリオンを形成するなど需要の高さがうかがえる。コロナ禍で欠かされた



数年越しの出展相次ぐ

今年のエヌプラスを語る上で過去出展者の「エヌプラス再活用の動き」は見逃せない。早速「昨年からエクスナールやエヌテック、日本アイ・ティ・エフなどが続々と出展を決めてきた。先述の通り「東京ビッグサイトで10月に開催や」「コロナがおさまったタイミングのため」といった時期的な理由もあれば「ちよとよい開催規模」や「新製品を試すべすとよい来場者層」「同時開催のFOOD展の存在が大きい」と各社の動機はさまさまだ。コロナ禍前はもとより、10数年ぶりの出展といったケースも散見。実に11年ぶりの出展となる、ハガタ屋は自動車系専門展示会に加え、秋のエヌプラスを追加選択。長年に渡り磨いてきた抜き型技術を再びお披露目する。同様に井元製作所は大規模スペースを活用したフィルム「軸延伸装置を幅広くPRしたい」と意気込んでいる。

キラリと光る企業が続々

新たに出展を決めた企業にも注目だ。三井化学と日本触媒の合併会社として設立された専業メーカーであるジャパンコンポジットがバイオマス原料を活用した難燃製品を、大規模ブース



チック総合展で出展実績をもつアイキ工業がスーパーエンプラとフッ素製品を出品する。ほかにも小松はね工業富士精工、橋田生産工業所といった技術力を武器とするものづくり企業の新規エンタープライズが絶えない。他方、最大手の三菱ケミカルは部署予算でバリア材をピンポイントに展開する意向を示す。一部署・製品単位での出展が多いのもエヌプラスの特長といえるが「新製品・技術を幅広い製造業へ展開する」絶好の機会と捉えていることが出展企業から伝わってくる。

業界団体との連携を強化

高い評価を得た業界団体等とのタイアップ企画も引き続き実施する。先述の日本不織布協会に加え、機能性フィルム研究会パビリオンでは、ユニチカや栄和化工などが初参画。名古屋大学(NC)も多数の企業に企画参加を募っている。ほかにも日本マグネシウム協会が会員と共に初出展。常連の日本チタン協会や新たに協賛団体に加盟した軽金属溶接協会などマテリアルシーンも注目だ。難燃材料研究会も会員企業誘致をすすめるなど、業界団体との連携もエヌプラスの強みとなってきた。

エヌプラス再活用の動きが顕著に

15th ANNIVERSARY エヌプラスを知る Q&A

Q1 開催回数は
 (A) 2010年スタート 今年で15回目
 一貫して東京ビッグサイトで開催を続けてきた

Q2 展示会の特長は
 (A) ①14のキーワード別展示会で構成
 ②空飛ぶクルマの専門展を併催 (詳細は裏面参照)

Q3 開催規模は
 (A) 139社出展 (2023年実績)
 8,235名来場 (3日間・登録数)]...対前年比約140%と上昇中!

Q4 どのような来場層なのか
 (A) 自動車、電装、航空・宇宙、メディカル等あらゆる製造業
 おもに「研究・開発部門」からの支持を得る

Q5 同時期の他展示会開催は
 (A) 「FOOD展2024」を併催。展示会場をシェアし、相互入場を実施予定
 他にはない食品メーカーや工場関係者との接点づくりに期待感

Q6 5月末までに開催可否の結論が間に合わない
 (A) まずは事務局に連絡して欲しい

Q7 事前に小間位置が選べるのか、小間レイアウトが見たい
 (A) 締切後よりレイアウト着手、7月中旬に一斉公開を予定 (メール通知)

Q8 パッケージ・オプション備品の価格が知りたい
 (A) まずは事務局に連絡して欲しい (参考資料を提供)

↑ 近年は展示会場で空飛ぶクルマの実機を常設。来春ははいよいよ大阪万博を控えており、本年はより多くの来場が期待される。



フライングカーテクノロジー

Flying Cars Technologies Exhibition & Conference

集大成 空飛ぶクルマの「ビジネス発展」に兆しあり

近未来の交通手段として注目を集める「空飛ぶクルマ」のビジネス化がここに来て急激に加速している。これを支えるべく、国内唯一の専門展示会「フライングカーテクノロジー」が本年も東京ビッグサイトにて開催。本展では、空飛ぶクルマの機体そのものから、機体開発に関わる素材・技術、パイロット(離着陸場)等のインフラ、気象・位置情報といった運航に関わる情報技術まで、あらゆるセクションの展示を募集する。さらに、国・自治体の動向など最新情報も幅広く提供することで業界をけん引してきた。万博もいよいよ来年開催となるまたとない機会。空飛ぶクルマビジネスの未来を切り拓くべく、企画や展示のさらなる充実が予想されている。

万博開催に向けたテストステージ



2025年大阪・関西万博開催まで1年を切り、空飛ぶクルマの就航へ向けた業界の機運が高まっている。肝となるメーカーの動向では、SkyDriveがWorkSpaceと設立しスズキグループの工場にて製造を開始した。テトラ・アビエーションは同社で初めての2人乗り機体となる「eVTOL Mk1」の開発に着手。パリ五輪ではポロコプターが本格的な商用運行を目指すなど、ワールドワイドで注目度は高い。万博開催目前の本年は関係企業にとって準備の最終段階であり、市場参入希望企業にとっても重要なタイミング。機体開発メーカーや運航事業者といった業界を先駆ける関係者と市場参入希望者が一堂に会すビッグイベントとして、開催5回目「フライングカーテクノロジー」にかかる期待の声は例年以上だ。各社のアピールと最新情報の発信に注目したい。

業界トップランナーが集結

本展示会では業界の有識者による実行委員会を組織し、セミナーや展示の企画検討に力を注ぐ。メンバーにはIHIの井原氏、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の森氏、CerTICAS(航空機整備品認証技術コンソーシアム)の高橋氏が新たに参画した。IHIはパワートレインとしてハイブリッド型eVTOL用ガスタービン発電機の研究開発を推進。NEDOは3年目を迎える

フライングカーテクノロジー実行委員会	
委員長	中野 冠 慶應義塾大学 大学院付属システムデザイン・マネジメント研究所 顧問
	井原慎一郎 (株)IHI 航空・宇宙・防衛事業領域 民間エンジニアリング事業部 技術部 第一プロジェクトグループ 主幹
	伊藤 健 (国研) 宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 航空プログラムディレクタ
	浅井 尚 エアモビリティ(株) 代表取締役社長&CEO
	木下 幹巳 エアロファンシティー(株) 代表取締役社長
	高橋 教雄 航空機整備品認証技術コンソーシアム(CerTICAS) 代表
	森 理人 (国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) ロボット・AI部 主査
委員	福澤 知浩 (株)SkyDrive 代表取締役CEO
	菊地 英一 (株)長大 事業戦略推進統轄部・事業戦略担当 執行役員 事業戦略推進統轄部 事業部
	中井 佑 テトラ・アビエーション(株) 代表取締役
	桐原祐一郎 テロイトマトコンサルティング(同) IP&C 執行役員
	村田 祐介 東京海上日動火災保険(株) 航空宇宙・旅行産業部 航空営業課長
	山下 敏明 日本電気(株) エアロスペースソリューション統括部
	鋤本 浩一 (一社)MASC 理事

ビジネスにフォーカスした関連展示会が増加傾向。新たなビジネスを開拓するスタートアップを筆頭に航空・宇宙分野を得意とする商社や、輸送や通信等の関連技術の専門企業など多彩な顔ぶれが揃う。なかでも航空・宇宙分野へ販路を持たないものづくり企業が数多く出展している点に着目したい。軽量化・表面処理・電磁波対策等、該当分野に必要な技術を持つたものづくり企業が、自社の素材や

新規参入・提案の架け橋に

大阪府は先日「令和6年度 空飛ぶクルマ都市型ビジネス化支援事業」の公募を開始した。万博後を見据えた空飛ぶクルマ関連ビジネスへの参入支援の一例であり、主に「離着陸場」に焦点をあてた内容となる。離着陸場関連ビジネスは今後のインフラとして空飛ぶクルマに欠かせない。昨年はIHI連機機とエアロファンシティーが積極的な提案をおこない、確かな手応えを展示したという。ほかにも日本気象協会が気象観測・予測技術を用いた空飛ぶクルマの安全な運航・就航を幅広くPRするなど、ビジネス化をにらんだ動きが官民両輪で加速している。ものづくり企業も売り込み意欲を燃やす事例は増えている。いっぽう、これからの成長市場なだけに、そもそも販路開拓に悩む事例も見受けられる。そういった観点でも有識者から様々なアドバイスやヒントが得られる本展でのアプローチは良いきっかけとなりそうだ。

加工技術提案の場として活用しているのだ。昨年のフライングカーテクノロジーでも、高機能なねじを扱うサイマコーポレーションや金属の性能を向上させる熱処理技術を持つ多摩冶金が空飛ぶクルマ分野への先行PRをおこなった。エヌプラスとの同時開催によって空飛ぶクルマ関係者へ効果的なものづくり提案も可能だ。本年は「ものづくり技術提案ゾーン」を特設し、全国各地の自治体や航空系産業クラスターの協力を得て、優れたものづくり企業の出展を後押しする。



N-Plus キーワード展示会特集 一効率的に来場者へPR

エヌプラスでは**自社の特長や売り込みたいポイント**に合わせた「キーワード」を絞り込んで出展が可能！
※メインキーワードを1つ、サブキーワードを3つまで選択可

本年出展者から人気のキーワード	前回出展者から人気のキーワード
1 プラスチック高機能化展 高機能性と信頼性を高めるためのコーティング技術を提案	1 受託・付加製造・加工技術展 日本のものづくりを支える製造・加工技術の提案
2 コーティング・表面処理展	2 コーティング・表面処理展 高機能性と信頼性を高めるためのコーティング技術を提案
3 受託・付加製造・加工技術展 日本のものづくりを支える製造・加工技術の提案	3 プラスチック高機能化展

前回来場者の目的キーワード	事務局おすすめキーワード
1 環境配慮型素材展 SDGs、カーボンニュートラルの実現に貢献する素材と技術	1 次世代製品開発DX展 デジタル技術の活用による生産性の向上
2 プラスチック高機能化展 プラスチック・フィルム・ゴム等の高機能化と信頼利用を提案	2 フライングカーテクノロジー Flying Cars Technologies Exhibition & Conference
3 受託・付加製造・加工技術展 日本のものづくりを支える製造・加工技術の提案	3 不織布・機能紙展

24時間いつでもWEBから申込可!

出展申込方法

1) **出展申込方法【WEB申込】**
申込から契約締結までオンライン上で完了します。
(出展申込書の原本提出・押印不要)
公式WEBサイトの「出展申込(WEB)」からお申込みください。

WEB申込 www.n-plus.biz/application_form/

出展申込(Web)のフロー

原本提出・印鑑不要! 出展申込から契約までWebで完了

1 規約同意・出展申込 公式WEBサイトの出展申込フォームへアクセス。出展規約を必ずご確認の上、必要事項を入力して申込ください。	2 申込内容確認 事務局にて申込内容を確認したのち、後日連絡担当者より承認の有無をお知らせいたします。承認後「締結完了メール」が配信されます。	3 出展承認・保管 連絡担当者より承認の有無をお知らせいたします。承認後「締結完了メール」が配信されます。添付書類が申込の控えとなりますので保管してください。
--	---	---

※本システムは弁護士ドットコム株式会社運営のクラウド型電子契約サービス「クラウドサイン」を利用した出展申込受付システムです。
※出展申込書(背面)による申込をご希望の場合は、事務局までご連絡ください。